



The Garden of Medicinal Plants, Kinki University



スズラン

学名	: <i>Convallaria majalis</i>
生薬名	: 鈴蘭根
薬用部位	: 根、根茎
薬効	: 強心、利尿



フランスでは5月1日は「スズランの日」とされ、幸せを願ってスズランの花を贈る習慣があります。「幸福の再来」という花言葉を持ち、ヨーロッパでは古くから幸福や純潔のシンボルとされ、花嫁のブーケにも欠かせません。最近では英国・ウイリアム王子と結婚したキャサリン妃もスズランのブーケを手にしていました。

スズランはフランスでは「マリアの涙」、イギリスでは「谷間の百合」、日本では、大きな葉の影で控え目にうつむいて咲く姿から「君影草(きみかげそう)」という美しい別名を持っています。庭先でよく栽培されているのはヨーロッパ原産のドイツスズランで花や葉が大きく、日本のスズランが葉よりも低く咲くのにに対して、葉より上に花が付き、より強い芳香があります。透明感があり、爽やかな香りを持つスズランは、ジャスミンやバラとともに香水の三大香料として珍重されています。

そのような慎ましく可憐な姿とは似つかわしくなく、スズランの全草には強い毒性があります。特に根や根茎にはコンバトキシンなどの強心配糖体を多く含み、その作用はジギタリスに類似し、さらに10-15倍の毒性を持ちます。中毒症状として、嘔吐、頭痛、幻覚、不整脈、を発症し、心不全を引き起こします。かつては「鈴蘭根」という名で、強心剤や利尿剤とされましたが、強い毒性から現在では使用されていません。水に溶けやすい性質があるため、花瓶に生けた水を誤飲して死亡した事故例や山菜のギョウジャニンニクの新芽と似ているので、誤食による中毒事故が報告されていますので注意が必要です。スズランが郷土の花とされる北海道でも「スズランの花畑で眠るな」という言い伝えがあるようです。

